

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3090100482		
法人名	セントケア和歌山株式会社		
事業所名(ユニット名)	セントケアホーム中之島(2F)		
所在地	和歌山県和歌山市中之島380番地10		
自己評価作成日	令和3年3月1日	評価結果市町村受理日	令和3年4月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3090100482-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	令和3年3月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症ケアに重点をおき個別対応に力を入れています。コロナ禍の中お客様とご家族様の関わりが激減している為お電話にてご様子をお伝えしたりお写真をお便りみつけて送付したりしています。家庭的な環境のもとで日常生活の介助を通じて安心と尊厳のある生活を営む事を支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

建物の1階と2階、2ユニットのグループホームで、運営する法人は全国展開のケアサービスを提供する企業グループに属しており、新型コロナウイルス感染予防に関しても、いち早く全国の情報入手でき、アクリル板の設置や入居者のマスク着用等迅速に対策がとられている。昨年からの外出や訪問が制限される状況が長く続いているが、管理者のリーダーシップのもと、全職員が気持ちを一つにして「お客様第一主義」を心掛け、一人ひとりの入居者を大切にして、生きがいをもち安全で快適な生活を送れるよう取り組み、重度化した入居者に対してもきめ細やかなケアの提供に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	経営方針書に会社の理念・営業所の目標を掲げており毎朝朝礼で黙読し管理者・職員で共有し実践につなげている。	セントケアグループの経営方針書に示された経営理念「お客様第一主義」を職員に周知徹底し、入居者が満足し感謝できるケアの提供を目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	営業所のある自治会に参加し回覧版を共有させてもらったり地域の一員として関わらせてもらっている。	新型コロナ感染防止のため、現在は外部との接触が制限されており、日常的な地域との交流は困難な状況にある。近隣に向けてセントケアだよりをポストインするなどし、事業所の日常を知らせる取り組みを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方から電話や来所で認知症の相談を受けた時に対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議は開催出来ていないがこちらの業務のことなどを包括支援センターや家族様に報告を行っている。	コロナ禍以前は、2カ月に1回開催されていたが、昨年3月からは、入居者及び職員の安全を第一と考え、書面にて実施している。また、出された意見を運営に反映させるよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括支援センターや市役所の関連部署には連絡をとり相談・報告を行っている。	地域包括支援センター職員とは、書面にて、運営推進会議の報告及び相談を行い、市の担当者とも必要に応じて連絡を取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ねん2回身体拘束の研修をスタッフ全員受ける体制が出来ている。日中スタッフの人員が確保できているときにはドアの自動ロックも解除している。	日中は、玄関・ユニットの出入り口の施錠はなく、言葉による拘束にも注意を払っている。安全確保のため2名の入居者にセンサーマットを使用しているが常態化しないよう見直して必要ない状態になれば撤去している。	さらに、行動パターンの把握や見守りの強化等の工夫で、センサーマットの使用を極力行わずに済むための取り組みに期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回虐待防止の研修を受ける体制がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は成年後見制度などの外部研修を受け学び必要なお客様の相談にのっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の改定などがある時は書面で家族様に送付し疑問のある方には個別に説明を行い理解・納得してもらおうようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様にお便りで意見・要望を聞かせてもらう事もある。	家族から口頭や電話、手紙等で意見や要望が出された際には職員間で共有し、できる限り運営に反映させるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は意見があれば管理者に直接言える環境にあり管理者もその意見を精査し改善をおこなっている。	フロアミーティングにて意見を出す以外にも、日常的に管理者と職員が話す機会が多く、職員からの意見、提案を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が職員個々の能力を見極め昇給に向けたアドバイスをを行いやりがいや技術の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量ややる気を考え■の習得の為の研修に参加できるよう環境作りをしケアの質を高めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会を自社で開催し同業者の方を招き交流する機会作りをしているが今はコロナ禍の中出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入時には環境の変化もありお客様の宇案が強いが家族様・本人様前ケアマネジャーの方からのアセスメントなどの情報でお客様の安心できる生活ができるように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様から直接お客様の身体状態や心配事を聞く事も行うが生活歴なども書面で書いてもらって把握する対応もしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	導入時にお客様・家族様の現状をお聞きし今困っている事に対してこちらが行えるサービスを提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様個々に出来る事は行ってもらい出来ない事に対して支援していく関係作りをいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様にもして頂きたい事を伝えて定期的にお客様とのかかわりを持ってもらえるように支援していく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お客様の馴染みの方が来所された時は感染症予防をし面会をしてもらえる体制作りをしている。	新型コロナの影響に伴い、外出できない日々が続き家族との面会も長期間できない状況にあったが、最近では、感染予防の対策を取ったうえでアクリル板越しに15分以内の面会を始めた。	馴染みの人や場との交流が難しい状況にはあるが、馴染みの人や場所などにまつわる慣れ親しんだ思い出を話し合う等、関係継続の支援につながる試みが望まれる。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士の関係性も考えながら職員が間に入りコミュニケーションをとるように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設にお客様が移られた時もその後家族様からの連絡・相談があればお聞きするようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中でお客様の要望や思いをおききしたりしている。話す事が困難な方はメモリーブックなど今までのご様子や家族様の要望をお聞きし確認している。	入居時に、家族と共に入居者一人ひとりの人生の記録「メモリーブック」を作成し、その人らしさを大切に支援に努めている。また、日常の会話や表情からその人の意向や希望を聞き取り、意向に沿ったケアを提供している。	さらに、入居後の日常から知った入居者の思い等の情報も記録し、フェイスシートとして活用できることを期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	直接お客様や家族様からお聞きする事やメモリーブックの活用、全ケアマネジャーからのアセスメントシートを活用したりして把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々お客様の状態を確認させてもらい自身で出来る事は行ってもらい出来るだけ今まで行っていた1日の生活を続けて行えるような支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	お客様・家族様の意見や要望をお聞きし医師・看護師の医療的アドバイスを反映し職員のケアの意見を組み込んだケアプランを作成している。	家族・本人の希望とかかりつけ医の意見を取り入れ、法人所定の様式で作成している。3か月ごとにモニタリングを行い、半年ごとに現状に合わせて更新している。変化が見られたときは、都度カンファレンスが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個別に経過記録に記録しスマートフォンでの音声入力も始めている。体調変化などは日報に記録し職員間や管理者に伝えケアの見直し改善を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お客様の状態・ニーズの変化によってサービスの変更がある場合は自社他社で出来るサービスを考え提案をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個別に必要な地域資源をを活用し安全で豊かな生活が出来るように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にはお客様の関わりのあるかかりつけ医を確認し継続して行ってもらえるよう支援している。	以前からのかかりつけ医を継続する入居者と、入居後に往診が受けられる協力医療機関の医師をかかりつけ医とする入居者がおり、本人が希望できるようになっている。かかりつけ医、歯科や眼科の受診は現在すべて往診で行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回看護師による体調管理をしてもらえる体制がありお客様の体調の急変時に連絡・相談も行える。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には基本情報を医療機関へ伝えている。退院まえにはカンファレンス参加し円滑な退院にも努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期には家族様・医師・看護師とのカンファレンスを行い今後のケアの方針の確認を適時行っている。	入居時に、事業所での看取りの説明をして意向を聞いている。入居者やその家族からは、事業所での看取りの希望が多く、重度化による状態の変化があれば、都度話し合って終末期のケアに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生のマニュアルがあり職員にも対応してもらっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回研修を行い職員全員に対応を確認してもらっている。	年2回避難訓練を実施している。地震の際の出入り口の確保、水害の際の2階への避難も想定している。食料の備蓄及び停電時に備えての発電機も用意されている。非常時には、近隣住民の受け入れも表明している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お客様一人ひとりに合わせた声掛けを行うようにしている。不十分な職員には適時指導し改善に努めている。	入居者を尊重し、その人の思いを大切にしてお返し合うよう心掛けている。プライバシーに配慮し、入室時はノックをする、トイレ使用時はドアを閉める等十分気を付けるとともに、排泄などの個人情報を見守る前でも口にしないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お客様から希望があれば尊重し行ってもらっているようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の状態(体調・認知機能)を考慮して食事の時間を個別対応したり本人のペースで過ごしてもらえるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人様・家族様の要望に応えたり・季節のものなど配慮し対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事時間外でも食べ物の話をしたりして好みをお聞きしている。	調理専門の職員により、栄養バランスの取れた献立でソフト食・ミキサー食も用意している。入居者の誕生日には、赤飯で祝っている。新型コロナ感染予防のため、食事の際のエプロンは使い捨てのものを使用している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お客様一人ひとりの普段の食事量・水分量を記録し変化に注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	お客様自身での歯磨き・義歯の洗浄できる方は行ってもらい、うがいが困難な方はモアブランを使用させてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お客様の状態に合わせてオムツ・リハパン・パットの使用を考えて不必要になれば使用しないなど考えていく。	トイレは1ユニットに2か所設置されており、個々の排泄パターンを把握のうえ、状態に合わせて自立に向けた支援を行っている。夜間は、室内のポータブルを使用する入居者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の状態・回数・間隔を職員が記録し申し送りを行い水分量や服薬の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お客様の状態やタイミングに合わせて入浴してもらえるように調整している。希望の時間帯や拒否の多い方の対応も変更して対応している。	入居者の希望に合わせて入浴を支援している。入浴を拒否しがちな方には、声掛けを工夫するなどして週2回は入浴できるよう支援している。新型コロナウイルス感染予防のため、シャンプー・タオル等の物品を個人の私物に切り替えた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	フロアで座ってばかりのないよう日中も居室で横になってもらえるように促し昼夜逆転している方の医療への相談も行う。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お客様の服用している薬の確認は薬物情報で確認をする。排便の薬を服用しているお客様は職員が把握し注意してもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションで塗り絵・計算問題・歌・チラシでゴミ箱を折るなど個別にも対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍で外出は行っていないが普段は個々の家族様の予定と合わせて外出されています。	この1年間は新型コロナウイルス感染予防のため、入居者の安全第一を考え、外出が行われていない。外出できない日々が続いているため、今年は花見ドライブを計画している。	感染予防対策を取ったうえで、ドライブ等の外出を楽しむことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所されている方はふだんはお金を使うことがほとんどありませんが一部少額のお金を持っておられ買い物を頼まれるときに使われています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様持参の携帯電話を使用されている方もいらっしゃいます。ハガキや手紙が届くとお渡ししポストに投函を依頼されると対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間の温度・湿度・匂い・光の強さなどは気を付け適切な状態になるよう努めています。	トイレの場所をわかりやすくするため、使用しないときは常にドアを開け、ドアを閉めると「トイレ」の表示が見えるよう工夫されている。入居者は、共用空間で長時間過ごすことが多くゆったりとくつろげるソファが設置されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の個々の席やソファがあり仲の良い方同士ではなされたりしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は入所時にお客様の使っておられたものを出来るだけ持ってきて頂き居心地良く過ごしてもらおうようにしています。	各部屋に洗面台を備え付けられている。使い慣れた家具や家族の写真などを持ち込んだ居室もあり、居室内はそれぞれの好みで居心地よく整えられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前にお客様のお名前を掲示しお部屋がわかりやすしたりトイレのドアにもわかりやすい表示をしたりしている。		